

# KSKQ どかどか No.283

にゆーす

# ぽぽんがぽん News



笑顔あふれ つながりあえる社会へ  
～ひとりひとりが自分らしく生きてゆけるために～

## 新型コロナノ新型コロナ

大阪では 5月21日、緊急事態宣言が解除されました。新型コロナウィルス(以下、'コロナ')による影響を受け、今後どのような新型コロナカラになっていくのか? 目指していくべきなのか?

コロナによる影響を日本赤十字社が、「3つの感染」としてまとめてくれています。1. 生物学的感染 2. 不安と恐れなど心理的感染 3. 差別や偏見など社会的感染 です。まさにこのスパイラルに陥っている状況です。アメリカでは、人工呼吸器の不足から命の選別が議論され、障がい者が対象視されているといったニュースも目にしました。日本においても「生命・医療倫理研究会」の有志により3月30日、緊急時における人工呼吸器の配分の考え方についての提言が発表されています。このフローチャートの第1設問が「患者には意思決定能力があるか」とされている。もちろんこのガイドラインの作成にあたり障がい者を軽視する意図はなかったであろうが、非常に危険性を感じます。奇しくもコロナ禍によりかき消されそうになっている、相模原事件の植松被告の死刑判決による裁判の終了に纏いついた核心的課題と、今回のコロナ禍にて立ちこめ始めている差別(造語)の発生源は同種だと感じています。

先日、囑託医とコロナ禍による何とも言えない疲労感について話をしました。そこでの話しでは、「無意識にすぎっていた常識の喪失」により拠り所を失ったということではないか、と話していました。また、その常識を取り戻そうとする動きが始まるが、元に戻るべきではないともおっしゃられていました。これまでの常識ではなく、われわれが作り出さなければならぬ新型コロナカラには、前述の霞をしっかりと払拭していかなければならないのではないのでしょうか。そのためにも、相模原事件のことは向き合い続けなければならないと思っています。

コロナ禍では、目に見えないことへの不安と対峙し、さまざまな偏見と差別が生じ始めていますが、われわれ援助職にたずさわる者たちは、元来、個人因子や環境因子をとらえる視野を持ち、自己覚知する習慣があり、見えないニーズを創造豊かに捉えて、柔らかく自問自答し、成果を成長軸に据えず長期視点で向き合い、コミュニケーションの質に重きを置くなど、さまざまなスキルと文化が備わっているはず

です。コロナ禍の中で、創り出していくべき新型コロナカラは、われわれ福祉の中にこそ大きな手がかりがあるのではないのでしょうか。そう考えると、われわれの取り組みは新型コロナカラの希望だと思えます。

- も 1頁 新型コロナノ新型コロナ
- く 2頁 のむすけバスに乗る
- じ 3頁 各場(事業)から・スタッフ紹介
- 4頁 つながりまつり中止のお知らせ
- 5頁 お問い合わせと寄付金のお礼
- 6頁 編集後記

事務局 長 水野昌和

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8)の日発行



# のむすけバスに乗る No. 11



わたくし、潰瘍性大腸炎という難病患者であることが大阪府に認定されました。

「テッテレー！」  
振り返ると、小さな頃からよくお腹が痛くなる事がありました。

昔から潰瘍性大腸炎だったので、自己免疫によって大腸に炎症を起こし大腸出血や大腸がんになってしまいう病気で、1日中ひどくお腹が痛み、体力が消耗して眠る数時間以外は、ずっとトイレに居るような時もありました。毎日体重が、1キロ減り続けました。日常生活はもちろん出来ません。

路線バスの運転手をしていて、『車内の周りやこれから途中の停留所から乗車になる、お年寄りやお身体のご不自由なお客さま。マタニティマークをお持ちの妊娠中のお客さま。乳児や幼児をお連れのお客さま。脳機能・関節・内部障がい・難病などの疾患があり座席が必要な方がお持ちになるヘルプマークをお持ちのお客さま。この車両の優先席にも限りがございますのでお席をお譲り頂けるお客様にはお譲り頂きますよう御協力をお願いします。』なんて、車内案内をしていたのですが！自分自身がヘルプマークが必要なくらい身体が弱ってしまいました。そこで、妻にお願いをして市役所でヘルプマークをGETしました。

中医学を取り入れて漢方や針も使って治療をしてくれる大阪天満橋にある「木本クリニック」で現在も治療をしています。自宅の四條畷市片町線忍ヶ丘駅から大阪市中央区の京阪本線天満橋駅までの通院が身体が回復するまでの間本当に大変でした。



身体の中で出血をしていて、食事也十分食べられないのですから常にふらふらです。車を運転する自信も、ありませんので公共交通機関での移動となります。

とにかく椅子に座りたい。それがムリならドアの所でもたれていたい。午前中の診察のためには、混雑している電車で移動しなくては、いけません。ヘルプマークをつけていましたが優先席を譲ってもらえることは、1度もありませんでした。席が空いた後にぐったりして座ると、この人は座席が、必要な人だったのだと表情を変えた男性を1人確認した以外は、優先席を座っていても周りにも気に留めることなく座っている人がほとんどでした。

現在では、ヘルプマークをカバンにはぶら下げていません。座席に頼らなくても移動出来るまで回復しましたので。

電車・バスなどで人が倒れたり、急病人が発生した場合は、すみやかに運行を停止して乗務員は、救護にあたることとなっています。このため10分~30分位は、運行を見合わせる事となります。

配慮が必要な方が身体負担を少ない状態で電車・バスなどを利用してもらうことは、とても大切なことです。公共交通機関を利用する人の中には、座席を必要とする人がいますので声をかけて譲ってください。御協力をお願いします。(野村孝治)

## かくば 各場から

にっちゅうかつどうしえんふもん  
日中活動支援部門

じりつしえん  
いばらき自立支援センター「ぽかぽか」

こんにちは。「ぽかぽか」です。茨木市の真砂玉島台に社会福祉法人として施設建設をして今年5年目を迎えました。2016年5月から生活介護事業所として利用者の皆さんと活動しています。

「ぽかぽか」の朝は5年前と変わらずラジオ体操の音楽から始まります。日頃は、自主製品の作製や、公園除草・アルミ缶回収など、工賃につながる活動

をしています。それぞれの方のお力や個性を活かして参加してもらえるように、商品や作業工程を工夫して取り組んでいます。また、お昼ご飯作りに参加していただいたり、散歩やストレッチなど健康増進の活動も取り入れています。季節に合った行事、春はお



うんどうかい★

花見、秋は運動会、冬はクリスマス会など企画し参加しています。また、



おはなみ☆

地域の方々と日常的に散歩やゴミ拾い活動を通して、挨拶を交わす時間も大切にしています。昨年バリバラに出演した利用者さんがおられ、地域の方から「テレビ観たよ」と声をかけていただくことができました。気軽に声をかけていただけたこと嬉しく思います。

これまで利用者さんやスタッフのみんなが大切に取り組んできたからだと感じます。これからも、地域とのつながり、利用者みなさんの主体性や参加・地域の暮らしを大切にしながら楽しく活動していきますので、よろしくお願ひします。(山本絢加)

## しょうかい スタッフ紹介

にっちゅうかつどうしえんふもん  
日中活動支援部門

じりつしえん  
いばらき自立支援センター「ぽかぽか」

こんにちは。ぽかぽかの小里です。2013年4月にグループホームの世話人として入職し、現在はぽかぽかで働かせて頂いています。グループホームのメンバーさんから『こじゃりん』というニックネームを付けて頂きました。気軽に呼んでください(\*^\_^\*)

入職当時、一緒に働く先輩や上司の方々のメンバーさんに対する熱い思いに惹かれ、今に至ります。現在一緒に働いているスタッフさんたちも熱いです(\*^\_^\*) 私にとってメンバーさんと一緒に過ごす時間や気持ちを共有することは、自分自身がとても励まされており、日々成長させて頂いているんだと感じます。メンバーさんから声をかけてもらおうと元気が出ます！今後ともどうぞよろしくお願ひします。

写真は(昨年)初めての韓国にて。K-POPが好きです♪ライブ鑑賞や野球観戦も好きです。次に行ける日を楽しみにしています。



こさとみほ  
(小里美穂)

## 第39回つながりまつり延期のお知らせ

第39回つながりまつり実行委員会  
実行委員長 六條友聡

平素より、つながりまつりにご支援ご協力およびご参加頂き、誠にありがとうございます。

さて、例年開催しております「つながりまつり」につきまして、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、誠に勝手ながら2020年の開催を1年延期させていただくことと致しましたので、ここにお知らせいたします。

楽しみにされていた皆様にはご期待に沿えない報告となりましたこと、心より深くお詫び申し上げます。

今回つながりまつり延期の判断をいたしました理由としましては、新型コロナウイルスの影響により、つながりまつり当日までの準備期間において、十分な活動ができない可能性が高いこと、また延期決定当時(4月)において収束時期が不透明なことから、今年度は開催を見送り、来年2021年10月頃に開催することといたしました。

来年の開催では皆様と盛大につながりまつりを楽しみたいと思っておりますので、それまでどうぞ心待ちにさせていただきますと幸いです。

### 問い合わせ先

【第39回つながりまつり実行委員会】(担当: 六條友聡、今村尚紀)

電話 072-623-9202 FAX 072-623-9203

メール tsunagarimatsuri@gmail.com

ご寄付ご協力ありがとうございます！



ご寄付等のお礼 2020年2月19日～2020年5月26日まで（順不同）

※郵便振替の都合上、お名前が反映できていない場合は次号にて掲載させていただきます。

● 社会福祉法人ほぽんがぽんへのご寄付ご協力ありがとうございました。

鎮山様 北田様 匿名の皆様

● つながりの会ほぽんがぽん（後援会）へのご寄付ご協力、ありがとうございました。

村上様 埴淵様 鍋谷様 舟橋様

コープ神戸自主活動グループ 小間物やさん様 匿名の皆様

● アルミ缶・バザー用品・牛乳パック提供ありがとうございました。

【バザー用品】谷川様 谷田様 梅本様 田中様 海野様  
作業所へ持参して下さった皆様 匿名の皆様

【アルミ缶】ハロハロ様 舟橋様 浅野様 作業所へ持参して下さった皆様

【牛乳パック】江菅様 関西よつ葉連絡会淀川産地直送センター様 菜の花障害者相談支援センター様 作業所へ持参して下さった皆様

● 文房具類ご提供ありがとうございました。

谷川様

ご支援、ご寄付、ご提供ありがとうございました。

社会福祉法人ほぽんがぽんへご寄付をご希望される方は、ゆうちょ銀行へお願いします  
<払込取扱票を使用する場合>  
口座記号口座番号：00930-0-212299  
口座名称：社会福祉法人ほぽんがぽん

<ゆうちょ銀行以外をご利用する場合>  
銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900  
店番：099 預金種目：当座  
店名：〇九九（ぜ けいけいり）  
口座番号：0212299  
口座名称（漢字）：社会福祉法人ほぽんがぽん  
口座名称（カナ）：フク ポボンガボン



### バザー活動終了のお知らせ

平素は、社会福祉法人ほぽんがぽんの取り組みに、ご支援ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

約39年前より、障がいのある方の工賃確保や活動資金の確保を主な目的として取り組んできましたバザー活動ですが、その活動を終了することとなりました。

つきましては、バザー用品の回収を終了とさせていただきます。

この度、バザー活動を終了することと判断いたしました主な要因といたしましては、回収したバザー用品の保管場所確保に係る経費の負担、バザー開催に伴う運搬等のボランティア確保の困難、売り上げの低下などがあげられます。

バザー活動は、工賃や活動費の確保を主な目的としてまいりましたが、活動を通じて地域の方々とのつながりが生まれたり、つながりが続いてきたことは、何ものにも代えがたい大きな成果でした。

長年に渡りご支援ご協力いただきましたことに、書中ではございますが心より感謝申し上げます。

バザー活動は終了いたしますが、障がいのある方々が当たり前前に地域で暮していける社会を目指して、今後も活動してまいりますので、今後も変わらぬご支援ご高配賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。

編集後記

これを書いている現在、日本においては、緊急事態宣言が解除されたが、引き続き感染防止対策の継続が必要な状態である。

参考までに、この間のぼぼんがぼんのとりくみを思いつくまま列挙しておく。

【情報収集】

・行政からの膨大な通知等の把握・コロナ関係の世界、国、府、市の動向の把握・コロナ関係の必要な知識の収集・行事等の延期、中止判断・他事業所等の状況、福祉関連感染対応事例の状況把握・会内利用者、職員等の重症化リスクの把握・職員の生活支援への応援配置の可否把握・感染者が出た場合の対応シミュレーション

【会内情報発信】

・感染防止の支援対応周知・法人からのメッセージ発信・感染者への人権の配慮等の通知・感染防止の情報提供、注意喚起・ストレス緩和のための情報提供

【感染防止策、備品等のチェック・確保】

・マスク、消毒液等の配布・除菌液生成器の確保・フェイスシールド、防護着、非接触検温計等の確保・三密回避のための各場の備品、席配置等の変更・対面の飛沫防止のための間仕切り設置・ドアノブ等の消毒、定期的な換気、手洗い励行等・グループホーム等で感染者が出た場合に隔離して支援できる場所の確保

【各事業における対応】

・ガイドヘルプの行き先の制限、コロナシフトの支援プログラム検討・日中活動の場の可能な限り自粛要請支援対応・グループホーム、重訪自立生活での生活支援における各種対応・利用者、職員の発熱者への対応・一部部署によって職員の在宅ワークの導入・会議等のリモート化・コロナ関連での事業縮小等による休業者への手当・コロナ関係助成金等の活用

今、ぼくが課題と感じていることをひとつ書く

生活介護やグループホーム等の現場は三密が避けがたい環境であるが、事業継続が必要である。しかし、この間、発熱があってもPCR検査が受けられない状況が2020年6月3日現在でもまだ大阪府茨木市では続いている。感染疑いがあるかないかは事業所の判断とされ、感染しているか、していないかわからないなかで対応が求められている。

目の前を言えば、特にクラスターの発生しやすい障害者福祉の利用者、職員に対しては速やかなPCR検査等の実施が急務である。長期的な視点で考えれば、障害福祉サービスの制度自体を見直す必要がある。例えば生活介護等の定員を1事業所5人とする。グループホームの定員を4人とする。福祉事業所の小規模化を推進することは、感染症対策の視点のみならず福祉理念からも目指すべきところだろう。

(太田吾郎)

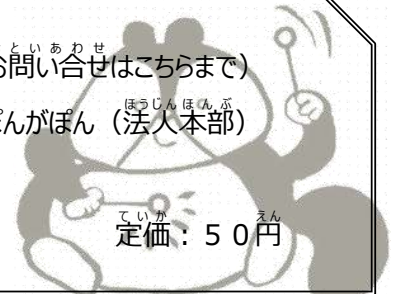
編集人：「障害者」の生活をひろげる場「どかどか」 TEL (072) 623-9202 (お問い合わせはこちらまで)

〒567-0888 茨木市駅前1-4-14 エステート茨木駅前3F 社会福祉法人ぼぼんがぼん (法人本部)

発行人：関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2東興ビル4F

定価：50円



一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8)の日発行